

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」

(ヨハネによる福音書3章16節 日本聖書協会・新共同訳)

# TNG NEWSLETTER

【TNGニュースレター】



vol.6

# 来んさいヒロシマ peace じやけん

平和を実現する人々は、幸いである。(マタイ5:9)



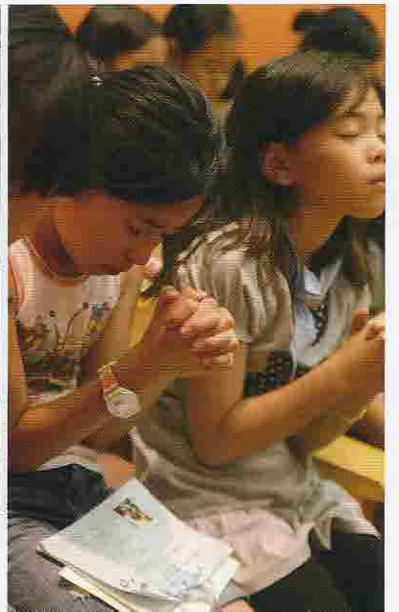
▶ 8月3日~5日

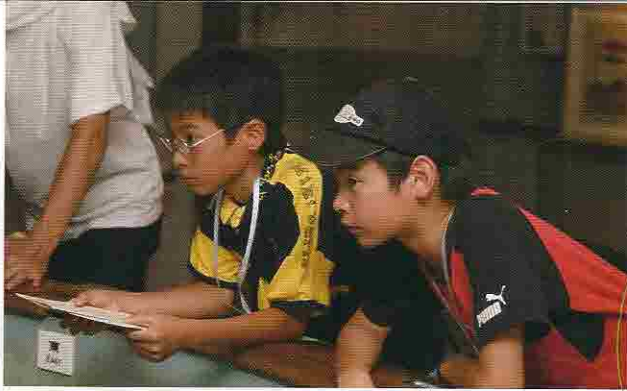
全国から43名の5,6年生の子ども達が広島教会に集いました。

1日目

仲間に出会う・  
ヒロシマに出会う

鳩作り・  
アイスメルティング  
アニメ「木を植えた男」





## 2日目 平和の木

原爆資料館見学  
爆心地に最も近い本川小学校の見学  
(この地下には、当時アメリカ人捕虜が収容されていました)  
原爆ドーム 平和公園ハイク、そして、



そして夜…。  
立野泰博チャブレンのお話  
パレスチナで  
どんどん切り倒されている  
平和の木・オリーブ  
今も戦火の中にいる子ども達  
切り倒されたオリーブの木でできた  
パンフルートの演奏♪

## 3日目

### ヒロシマからはじまる平和

子ども達は思い思いにこのキャンプで感じたことを自由な形で表現しました。この時の発表はととても素晴らしく、この3日間の子どもの目を見張る変化と成長は、私たちスタッフをととても感動させてくれました。そして、子ども達は、1人ずつ平和の決意を宣言し、広島教会の平和の鐘を鳴らして帰路につきました。キャンプが本当に豊かにされた事を神さまに感謝します。



5年生のお友達は、また来年！  
6年生のお友達は、ティーンズキャンプで！

## 子ども達の感想より

人間が一人一人助け合い、みんなで「平和」をつくること、その平和を大切に心に残して生きていくこと、そんなことは、一人でもできる。でも、みんなが考えれば、もっと早く平和ができると思いました。(N・O)

戦争はみんなの命をうばっていくから、毎日神においのりして生きていきたい。先、戦争がおこらないでほしい。(S・I)

「平和」ということがよくわかりました。私は本当に恵まれている！！パンフルートの演奏を聴き、とても心が落ち着き、「ありがとう」って語っているみたいでした。(S・O)

「仲よくする」「助け合う」ことが、平和を実現することにつながるんだと思います。1人の力は小さいけれど、手をつなぐことで大きな輪になっていくなだとわかりました。世界中の人たちと手をつなぎ、みんなが笑ってすごせる事が出来たらいいなと思います。(S・K)





# アメリカ ワークキャンプ

7月22日～8月5日

イリノイ州セントラリア

報告

7月22日から8月5日まで、イリノイ州セントラリアでのグループワークキャンプに日本から中高生8名とスタッフ3名で参加しました。テーマは「undeserved」、炎天下での一週間の作業と放蕩息子のたとえから、神様の不相応なまでの愛の深さを学びました。このキャンプで、私たちは3つのことを神様から示されました。まず、神に不可能はないということ。キャンパーたちが取り組んだ作業は、到底一週間で仕上げるには無理なように思われるものでした。しかも英語による意思疎通が不自由な中です。けれども一週間後、その嘆きは驚きに変わりました。クルーと支えあいながら、祈りながら、不可能を可能にしていくことができるということ。同じように、私たちの人生のどんな局面も、神は修復し、建て直し、新しく歩みださせてくださることのできるお方であることを示していただきました。

第二に、神は私たちにundeservedなまでの愛をもって癒してくださるお方であること。作業の中で、汚い土やペンキを素手で触ったり、服が汚れたりするようなことが何度か有りました。私は最初、汚いものを

触りたくない、手が汚れるのはイヤだ、と思いました。しかしながらその時神様は、私たちの心の奥底のどんなに汚れた部分までも、神は受け止めて清めてくださるということを示してくださいました。そして神であるイエス・キリストは汚れたこの世に来てくださったとわかったとき、私はこの神を自分の人生において第一とすると神様に約束しました。

第三に、放蕩息子が父親からundeservedなまでの愛を受け、息子の印である指輪を受け取ることを学んだとき、私たちがどんなに将来のことを不安に感じるときでも、私たちは神の子であり、父である神様の大きな導きを信頼して歩めばよいということを教えてくださいました。

英語漬け、体がぐったり疲れる作業……しかしそれ以上に、私たちは長い一生の中でこれ以上ないほど素晴らしい一週間で仲間たちと過ごすことができました。一週間たったときには、アメリカ人の友達とみんな涙、涙で抱き合って別れ、再会を約束しました。さあ、来年は、あなたの番です！！

このカンボジアのキャンプで私が一番考えさせられたのは、物乞いをしている人に自分が何をできるのかということでした。私はこのキャンプに参加して、初めて物乞いをしている人に会いました。話を聞いていて知っていたけれど、実際に会うと何もすることができませんでした。何もしてあげられないということがとても苦しく、私には何をしてあげられるだろうと毎日のように考えていました。神様はまた私たちにそのチャンスを与えて下さいました。その中で感動したことが二つありました。一つはトゥールスレン博物館に行った時のことでした。車から降りるとすぐに物乞いの人が近づいてきました。その人はハンセン病のような症状を持った人でした。彼は自分の帽子を取り、そこにお金を入れてというジェスチャーをしていました。私たちは一人一人彼の前を通る時に手を合わせて通りました。そして列の最後には、私たちに差し出していた帽子を胸にあてていたと聞いた時、きっと彼に私たちの思いが届いたのだと嬉しくなり、涙が止まりませんでした。もう一つは、最終日に買い物をして市場に行った時の話です。ハンセン病の症状を持ったおばさんが近づいてきました。彼女は物乞いをしていいたのではなく、生活の為にポストカードや本を持って売っていました。私は彼女からポストカードを買ったと、彼女は私に向かって笑顔で「God bless you!」と言ってくれました。私は初め、彼女の言っていることに驚きました。カンボジアは仏教の国だから、その言葉を知らないと思っていたからです。私は彼女に「God bless you!」と言い、別れ際に「I pray for you!」と伝えました。彼女がにっこりしたのを見て嬉しくなり、ありがとうございますと伝え、ハグをしました。それを分かち合いの時に話した時、また涙が止まらなくなりました。カンボジアの話は日本にいてもいくらでも聞くことはできます。けれど、実際に行って自分で感じないと分からないこともたくさんあるし、学べないこともたくさんあります。ただの観光で行くのではなく、信仰を持ったみんなが集まることで、こんなにも実りのある学びができるのだと思います。また、現地の人と触れ合うことができ、子どもたちからは元気をたくさんもらいました。そして、「心の温かさ」というのを感じました。

私はこの経験をもっともっとみんなに伝えていきたいし、少しでも興味を持っていけばどんどん参加してほしいと思います。このキャンプがずっと続いていてくれることを祈って…。

石川恵美(田園調布教会)



# 相手のために 祈る

カンボジアワークキャンプ





# 世界中の仲間と出逢い

LWFのPre-Assembly Youth Conferenceと11th Assemblyに参加して

日本福音ルーテル大岡山教会 大和由祈

私は今年の7月ドイツのドレスデンとシュトゥットガルトで行われた、LWF(ルーテル世界連盟)のPre-Assembly Youth Conference(PAYC)と11th Assemblyに日本福音ルーテル教会の青年代表(Youth delegate)として参加しました。私にとって今回のAssemblyへの参加はLWFの活動に参加する初めての機会となりましたが、その20日あまりの時間は、私にとって多くの学びと感動を与えられた、とても思い出深い時間となりました。

今回のPAYCとAssemblyへの参加を通して、私が得たものは大きく2つあります。まず1つ目は「世界中のルーテル教会に連なるYouthたちとの出逢い」です。世界45カ国から集まった120人のYouthはそれぞれ実に様々なバックグラウンドを持っており、その彼らと話をしているだけでも十分に色々なことを学んだのですが、彼ら自身のことだけではなく、それぞれの国のルーテル教会がどのような状況にあるのか、Youthとしてどのような活動をしているのか、というようなことを分かち合うことが出来たのも非常に良い経験となりました。特にYouthの活動に関しては、私も現在その活動に少し関わっているということもあり、他の国の活動を聞いて「こういうことを日本でも出来たら楽しそうだな」とか「日本の今の状況の中で出来ることは何だろう」といったことを色々考えさせられるきっかけになりました。彼らとは今もFacebookやSkypeで連絡を取り合っており、近況報告をしあうだけではなく、お互いのために祈るきっかけとなったり、また教会で

の活動についても分かち合う場となったりしています。

世界中にルーテル教会に連なる仲間がいるのだということ、身を持って実感し、またその彼らとこれからこのように繋がっていかれるというのは、私にとって良い経験になったと同時に、大きな励ましともなっています。

もう一つは、「LWFの活動について知り考えるきっかけとなった」ということです。私はこれまで、LWFの活動についてほとんど知りませんでしたが、今回PAYCとAssemblyでLWFとその活動について色々な話を聞いたり、私たち自身で考えたり話しあったりする中で、LWFの活動の幅の広さに非常に驚きました。PAYCでは、LWFは今後の活動として「Sustainability(持続可能性)」や「Gender Justice(性差をなくす)」といったことに取り組むべきだという話し合いをしたのですが、私はこれまで教会という場でこのような社会的問題を考えるということをしたことがなかったので、このことを皆で話し合ったということも新鮮でしたし、日本のルーテル教会でもこのようなことを考える機会があったら良いなと思いました。

今回このような機会をいただき、世界中のルーテル教会に連なる仲間たちに出逢えたこと、そしてLWFについて知ることが出来たことには本当に感謝しています。しかし、これに満足することなく、これからもこの仲間たちと繋がりを続け、日本のルーテル教会、そしてLWFの活動に少しでも携わっていくことが出来たらと思っています。

# 第14回 全国青年修養会報告

2010年10月9日～11日に、長崎市にある「長崎市立日吉青年の家」をメイン会場として、35名の青年（牧師を含む）が集まり、第14回全国青年修養会を開催することができました。

毎年、「全国の青年と集まる機会を持ちたい。」という想いはあるものの、修養会の実行委員となる教区が決まらず悩んでしまいます。しかし今年は、私のわがままによって九州教区が実行委員をさせていただくこととなりました。そうして、戦後65年目となる今年、「平和」について学びたいと考えました。

「平和」といっても、「身近な平和」や「戦争のない

平和」など様々な「平和」が存在しています。その中で、九州の土地で学ぶ「平和」を考えた場合、「長崎の被爆」「鹿児島の特攻基地」などが浮かびました。交通手段や施設の状態など様々なことを考慮した結果、被爆都市でありながら広島のような注目度がない「長崎」を知ってもらいたいと考え、長崎での開催を決めました。テーマは、平和について考え、行動できるようになりたいという願いをこめて、「We are PEACE makers」にしました。戦争を切り口として「平和」を考えた場合、どうしても被害的側面ばかりが強くなってしまいがちです。しかし、被害的側面ばかりでなく加害的



側面も存在することを知って欲しいと考えました。そのため、「長崎原爆資料館」（被害的側面）の見学に加え、「岡まさはる記念長崎平和資料館」（加害的側面）の見学もプログラムに組み込みました。加害的側面を知った参加者は、かなりの衝撃を受けていたようです。

それぞれが「平和」について学び、考え、意見を交わしました。すぐに答えが見つからないけれども、信仰を持ってずっと考え続けていかなければならない「平和」。

今回、参加者一人ひとりが「平和」を実現する者

として派遣されました。今後、それぞれの地で「PEACE maker」としての一步を踏み出してくれることを願っています。

今回の修養会で、「平和」について考えるきっかけを与えられたこと、実行委員長としての働きを与えられたことに感謝しています。本当にありがとうございました。

また来年も、全国青年修養会が開催され、多くの青年と出会うことを待ち望みます。

全国青年修養会実行委員長 末吉潤一（神水教会）

